

2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題

垣上正裕，松田安弘

群馬県立県民健康科学大学

目的：2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を明らかにし，その特徴を考察する。

方法：研究協力の承諾を得た2年課程看護専門学校を卒業した看護職者18名を対象とした半構造化面接によりデータ収集を行った。面接内容から得られたデータから，2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を表す内容を抽出し，Berelson, B.の方法論を参考にした看護教育学における内容分析の手法を用いて分析した。

結果：2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を表す【教員の指導方法や自校の教育方針に対する困惑】【実務や親役割と学業併行による自己学習時間捻出困難】など，23カテゴリが形成された。

結論：2年課程看護専門学校学生が学習上，23種類の問題に直面していることを明らかにした。また，考察の結果，それらの問題には，《2年課程看護専門学校学生が，成人学習者の特徴をもつことによって生じる》《2年課程看護専門学校の教育課程や学生の背景に影響を受けたことにより生じる》《対人関係技術の未熟さに影響を受けたことにより生じる》など，6つの特徴があることを示した。本研究の結果は，2年課程看護専門学校の教員が教育の対象である学生への理解を深め，学生の目標達成を支援する際の資料として活用可能である。

キーワード：2年課程看護専門学校，看護学生，学習過程，問題

I. 緒言

2年課程看護専門学校学生は，すでに准看護師免許を取得しており，その多くは，准看護師として就労しながら就学している¹⁻⁴⁾。また，入学時の年齢や学歴の幅が広く，配偶者や子どもを育てながら就学している場合もある⁵⁻⁷⁾。そのため，多くの学生は，授業前後に所属施設で就労したり，あるいは家庭内での役割を遂行したりしながら看護学の学習に取り組んでいる。筆者らは，このような背景をもつ2年課程看護専門学校学生に効果的な教育を行うためには，学生の学習経験の理解が不可欠であると考え，2年課程看護専門学校学生の学習経験の解明を試みた。その結果，【実務経験や学習経験の活用による学習内容の理解深化と活用不可による理解困難】や【膨大な学習課題の遂

行困難と困難克服の試み】など，2年課程看護専門学校学生の学習経験を表す16の概念が明らかになった⁸⁾。これらの概念は，学習内容の理解や膨大な学習課題の遂行に困難をきたしながらも，それらに対処し，克服していく学生の状況を表している。しかし，2年課程看護専門学校学生が，学習上どのような問題に直面し，それに対処しているのか，その全容を明確にはしていない。

2年課程看護専門学校学生に関する複数の研究は，精神看護学実習や母性看護学実習など，特定の授業の学習効果⁹⁻¹²⁾，病院や看護教育制度に対する意識¹³⁾，実習中の不安やストレス¹⁴⁾などを明らかにしている。その結果の一部は，2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を明らかにしている。しかし，これらの研究は，2年課程看護専門学校学生の特定の状況下における問題を，

副次的に明らかにしているものの、学生が、就学中にどのような問題に直面するのかを網羅するものではない。

以上を前提とする本研究は、2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を解明することを目指す。2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を解明することは、学生が自己の問題状況を客観的に理解し、明確な方向性をもって対処するための資料となる。また、今後直面する可能性のある問題を予測し、学習の見通しを立てることに役立つ。

II. 研究目的

2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を明らかにし、その特徴を考察する。

III. 用語の定義

1. 2年課程看護専門学校

(2-year diploma program in nursing)

2年課程看護専門学校とは、准看護師免許を得た後、3年以上業務に従事している准看護師、または高等学校もしくは中等教育学校を卒業している准看護師であることを入学資格とする修業年限2年以上の看護専門学校である¹⁵⁾。

2. 問題 (problems)

問題とは、生活体が何らかの目標を有しているが、その目標に到達しようとする試みが、直接的にはうまくいかないという状況である。また、この状況を解決する手段がすぐにはわからず、習慣的な手段では解決できない状況である^{16,17)}。以上を前提とし、本研究では問題を次のように規定する。問題とは、2年課程看護専門学校学生が学習目標を達成しようとする試みがうまくいかない状況のなかで、その状況を好転させるための手段がすぐにはわからない事態を指す。また、その事態を習慣的な手段では解決できない状況に直面するこ

とである。

IV. 研究方法

本研究は、筆者らが実施した先行研究¹⁸⁾で得られたデータを2次的に分析することを通じて実施した。

1. 研究対象者

本研究の対象者は、2年課程看護専門学校卒業後5年以内であり、継続して看護実践に携わる看護職者とした。

2. データ収集

データ収集には、半構造化面接法を用い、質問項目は、文献検討やプリテストの実施を通じて、時間的経緯に沿った質問項目を設定した。また、対象者の探索はネットワークサンプリング¹⁹⁾により行った。その際、本研究の目的・方法、対象者のプライバシー擁護の方法、研究への協力を拒否する権利等について説明し、対象者が研究協力に関する意思決定を主体的に行えるように配慮した。

3. データ収集期間

データ収集期間は、2011年3月7日から2011年7月11日までであった。

4. データ分析

1) 筆者らが実施した先行研究²⁰⁾で実施した面接内容から得られたデータから、2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を表す内容を抽出し、分析対象とした。分析には、Berelson, B.の方法論を参考にした看護教育学における内容分析の方法²¹⁾を用い、次の5段階を経た。

第1段階は、「研究のための問い」を「2年課程看護専門学校学生は学習上どのような問題に直面しているのか」と決定した。また、「問いに対する

回答文」を「2年課程看護専門学校学生は学習上（ ）という問題に直面している」と決定した。

第2段階は、各対象者の面接内容から得られたデータから、2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を表す記述全体を文脈単位とし、文脈単位を「研究のための問い」の「2年課程看護専門学校学生は学習上どのような問題に直面しているのか」に対する回答1つのみを含むよう記録単位へと分割した。

第3段階の基礎分析では、表現が完全に一致している記録単位、表現が少し異なるが完全に意味が一致している記録単位を分類・整理し、記録単位群を作成し、これに命名した。

第4段階の本分析では、基礎分析により作成された同一記録単位群個々を、その意味内容の類似性によりさらに集約し、その類似性を的確に表す用語に置き換え、カテゴリを形成した。また、各カテゴリに包含された記録単位の出現頻度を数量化し、カテゴリごとに集計した。

第5段階は、カテゴリの信頼性を確保するために、Berelson, B.の方法論を参考にした看護教育学における内容分析の方法を用いた研究経験をもつ看護学研究者2名におけるカテゴリへの分類の一致率を、Scott, W.A.の式²³⁾に基づき産出し、検討した。また、信頼性を確保しているかどうかを判断するための基準を70%以上とした。

5. 倫理的配慮

研究対象者への倫理的配慮は、日本看護教育学会研究倫理指針²³⁾に基づき、次のように行った。

研究協力依頼の際、研究の目的・方法とともに、対象者の自己決定の権利、プライバシーの権利を保障する方法について、研究者自身が口頭・文書により説明し、これを遵守した。また、研究終了後、録音データのファイルを削除することを約束した。研究参加の意思を確認した場合、同意書に

対象者の署名を得るとともに、研究倫理上の責任を明確に示すため、研究者自身も同一の同意書に署名し、各々がそれを1部ずつ持つようにした。これらに加えて、対象者に負担をかけない面接技術と態度習得のために、データ収集開始前に仮想の対象者3名に対して模擬面接を実施し、半構造化面接法を用いた経験を有する共同研究者にスーパービジョンを受けた。尚、以上の倫理的配慮に基づく研究計画は、2011年3月7日群馬県立県民健康科学大学倫理委員会による承認を得た。

V. 結 果

先行研究の協力者18名から得た、98,564文字の逐語記録データを分析対象データとして用いた。

1. 対象者の特性

1) 年齢

対象者の年齢は、23歳から44歳の範囲であり、平均年齢は30.2歳であった。

2) 性別

対象者の性別は、男性4名(22.2%)、女性14名(77.8%)であった。

3) 在学中の就労状況

対象者の在学中の就労状況は、就労していた14名(77.8%)、就労していなかった4名(22.2%)であった。

4) 在学中の婚姻状況

対象者の在学中の婚姻状況は、未婚16名(88.9%)、既婚2名(11.1%)であった。

5) 2年課程看護専門学校卒業後年数

対象者の2年課程看護専門学校卒業後年数は、1年未満から5年未満の範囲であり、平均2.2年であった。

6) 2年課程看護専門学校の設置主体

対象者が卒業した2年課程看護専門学校の設置主体は、公立4名(22.2%)、私立4名(22.2%)、医師会立10名(55.6%)であった。

7) 2年課程看護専門学校課程の種類

対象者が就学した2年課程看護専門学校の課程の種類は、全日制8名(44.4%)、定時制10名(55.6%)であった。

8) 就学地域

対象者の就学地域は、北海道1名(5.6%)、関東13名(72.2%)、中部2名(11.1%)、東海1名(5.6%)、近畿1名(5.6%)であった。

9) 2年課程看護専門学校への入学動機

対象者の2年課程看護専門学校入学動機は、「准看護師の賃金への不満」、「看護実践に必要な知識・技術に対する未熟さの自覚」、「専門的知識・技術への関心の高まり」などであった。

2. 2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題

対象者から得たデータは、255記録単位、120文脈単位に分類できた。この255記録単位のうち、19記録単位は、内容が問題に該当しなかったり、職業遂行上の問題を表したりしており、2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を表していなかった。そこで、これら19記録単位を除外し、2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を具体的に表す236記録単位を分析対象とした。

236記録単位を意味内容の類似性に基づき分類した結果、2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題を表す23カテゴリが形成された(表1)。

表1 カテゴリ・記録単位数

| カテゴリ | 名記録単位数 |
|--------------------------------------|--------------|
| 1. 教員の指導方法や自校の教育方針に対する困惑 | 28 (11.8%) |
| 2. 実務や親役割と学業併行による自己学習時間捻出困難 | 23 (9.7%) |
| 3. 複数の学習課題同時進行による学習困難 | 23 (9.7%) |
| 4. 入学に伴う環境の変化による心身の疲労 | 21 (8.9%) |
| 5. 准看護師学校養成所よりも高度な学習内容への適応困難 | 20 (8.4%) |
| 6. 看護過程の理解不十分による実習時の看護過程展開困難 | 19 (8.0%) |
| 7. 実務で経験していない学習内容の理解困難 | 12 (5.0%) |
| 8. 教員との関係形成困難による学習意欲低下と厳しい指導による自信の喪失 | 12 (5.0%) |
| 9. 他学生との関係形成困難による学習の難渋 | 10 (4.2%) |
| 10. 実習経験の少なさによる実習への不安 | 9 (3.8%) |
| 11. 学習環境の整備不十分に伴う円滑な学習困難 | 8 (3.3%) |
| 12. ケースレポート作成知識獲得不十分によるケースレポート作成困難 | 8 (3.3%) |
| 13. 広範な国家試験出題範囲に応じた学習計画立案困難 | 8 (3.3%) |
| 14. 実習中の課題過多による睡眠不足 | 7 (2.9%) |
| 15. 看護技術の未熟さと患者からの拒否による患者との相互行為困難 | 7 (2.9%) |
| 16. 国家試験受験に伴う精神的緊張 | 5 (2.1%) |
| 17. 実務と学業併行による集中力の拡散 | 4 (1.6%) |
| 18. 他学生と自己との比較を通じた劣等感の知覚による自信の欠如 | 4 (1.6%) |
| 19. 学習の継続による気力の消耗 | 3 (1.2%) |
| 20. クラスメイトとの良好な人間関係形成への不安 | 2 (0.8%) |
| 21. 他分野の友人の生活との比較による集中力の拡散 | 1 (0.4%) |
| 22. 実務と学業の併行生活開始による入学への後悔 | 1 (0.4%) |
| 23. 成績低下による学習意欲の低下 | 1 (0.4%) |
| 記録単位総数 | 236 (*99.9%) |

* 端数処理のため合計が100%とはならない

以下、これらのうち、記録単位数の多いものから順に結果を論述する。なお、【 】内は、カテゴリを表し、〔 〕内は、各カテゴリを形成した記録単位数とそれが記録単位総数に占める割合を示す。また、各カテゴリを形成した代表的な記述を用いて各カテゴリを説明する。

【1. 教員の指導方法や自校の教育方針に対する困惑】〔28記録単位：11.8%〕：このカテゴリは、「技術チェックは教員によって教える内容も違われ、合格基準も違うので疑問があった」「他校の学生は茶髪だったりするのに、何で私たちの学校だけみんな黒なのと、実習でいちいちうるさかった」「何をしても、まとめとか、学びを書かされ、またこれかと毎回思った」などのデータから形成された。

【2. 実務や親役割と学業併行による自己学習時間捻出困難】〔23記録単位：9.7%〕：このカテゴリは、「とにかく学校行って仕事行って疲れて寝る、勉強を帰ってきてするなんていう時間はない」「仕事があるから勉強は学校の授業と家に帰ってからの少しの時間しかない」「子どもが部活の朝練があるのかどうか、お弁当も作ったりもしなければならぬし、朝が来れば自分も仕事に行くわけだし、やはり次の日のことを考えると徹夜で勉強したりはできない」などのデータから形成された。

【3. 複数の学習課題同時進行による学習困難】〔23記録単位：9.7%〕：このカテゴリは、「看護過程演習は、もう時間もないし、次から次へ小児だ、成人だ、老年だと次々にくるのでこなさなくてはならなかった」「テストの時は、徹夜するくらいの感じで勉強したりしたが、科目が何十科目もあるから大変だった」「実習に追われて看護研究に身が入らなかった」などのデータから形成された。

【4. 入学に伴う環境の変化による心身の疲労】〔21記録単位：8.9%〕：「学校に行きながら働き、まして初めての一人暮らしをしつつだったので、入学直後はホームシックと軽いパニック」「看護専

門学校に入ったときは、勉強に集中しようと思ったが、昼間働いて夜学校っていうのが、自分の想像以上に、体がきつかった。」「入学した時は体力的には大丈夫だったけど、気持ちの面であっこんなに大変なんだと思った」などのデータから形成された。

【5. 准看護師学校養成所よりも高度な学習内容への適応困難】〔20記録単位：8.4%〕：「講義は、准看護師学校養成所ときにはまったく聞き慣れなかった専門用語だったりとか、そういうのがどんどん出てくるので、辞書がそばにないと教員が言っていることがわからない」「准看護師学校養成所ときは勉強に自信があったが、看護専門学校に入ったらどんなに頑張っても最下位のほうで全然点が取れなかった」「准看護師学校養成所ときは実習記録の量も少なかったが、看護専門学校のときは、SOAPがあつたり、量もたくさん書かなくてはいけなかったので、書くのがすごく辛かった」などのデータで形成された。

【6. 看護過程の理解不十分による実習時の看護過程展開困難】〔19記録単位：8.0%〕：このカテゴリは、「初めての基礎看護実習ではやはり看護過程のアセスメントにとっても手こずった」「実習での看護過程の展開は、参考書を見て流れはわかるが、具体的にどういったケアとか、そういうところまでわからなかった」「実習になると情報を取る段階で、何が重要なものなのか、何がいらぬものなのかということも判別できなくて、重要なものの優先順位がなかなか決められなくて困った」などのデータで形成された。

【7. 実務で経験していない学習内容の理解困難】〔12記録単位：5.0%〕：このカテゴリは、「自分は精神科だし、内科的なものがないので、そういうことを教えられてもなかなか頭に入ってこなかった」「テスト週間のときなど、わからないところは別の科に勤めてる学生と教え合ったが、自分のところは産婦人科だったので病気の患者がわからな

い」「技術演習のときに、教科書上でみるのと実際にやるのとは違い、仕事でやったことがないことは、すごく不安で嫌だった」などのデータで形成された。

【8. 教員との関係形成困難による学習意欲低下と厳しい指導による自信の喪失】〔12記録単位：5.0%〕このカテゴリは、「記録のことや、自己学習や対象との関わり方などで、毎日のように先生に怒られたり注意されたりしていたので、気分が落ち込み、切り替えがうまくできず、対象の患児と話せなくなった」「教員に厳しくされてダメだみたいと言われて、それで自信をなくした」「小児の実習で、教員にこてんぱんにやられて、そこで助産の受験を断念した」などのデータで形成された。

【9. 他学生との関係形成困難による学習の難渋】〔10記録単位：4.2%〕このカテゴリは、「グループワークは色んな人がいるし面倒くさく、自分の意見があまり言えないので不得意だった」「周りが年上ばかりで、仕事を経験している人などもいて、グループワークなどをしてしていると話についていけない」「グループワークは、話そうかなと思って、大体話す人は決まっているし、話されちゃったなと思って黙っていれば、発言してないよねという感じになってしまうので、それがすごく嫌で大嫌いだった」などのデータで形成された。

【10. 実習経験の少なさによる実習への不安】〔9記録単位：3.8%〕このカテゴリは、「2年生の1番最初の実習のときは、まったく知らない人の所にぼつんと入るのは嫌なので、実習がひたすら嫌で、やはり怖い」「最初の実習が、1学期の夏休みに入る前だったので、初めてで慣れていなかったもので、戸惑うことも多くうまくできなかった」「基礎看護学実習も、記録が書けるかどうかの不安があった」などのデータで形成された。

【11. 学習環境の設備不十分に伴う円滑な学習困難】〔8記録単位：3.3%〕このカテゴリは、「実習では、例えば物品も限られた数で限られた時間

のなかでやらなくてはいけないので、自分が先に準備したからあたしが使う、というのでは、やはり回っていかない」「みんな文献を探す時期が一緒なので、図書室に本もない、そのなかで、じゃあこれしかないよねって決めた」「大学の図書館まで行って文献を集めた」などのデータで形成された。

【12. ケースレポート作成知識獲得不十分によるケースレポート作成困難】〔8記録単位：3.3%〕：「看護研究の講義も大して教えてもらった感じはなかったので、何をしたらいいのか、どういうふうに進めたらいいのかわからなかった」「ケースレポートは、自分に知識がなく、どんなふうにまとめていいのかわからなかったが、夏休みにはもう仕上げたという感じだったので大変だった」「ケースレポートの作成では、初めてだし、作文と違って起こった事実に対してのアセスメントっていうか、自分のやったことを客観視するっていうのがどうしても苦手」などのデータで形成された。

【13. 広範な国家試験出題範囲に応じた学習計画立案困難】〔8記録単位：3.3%〕：「国家試験は初めてだったので、範囲が広すぎて、その年で何が出るのかも全然わからない」「気づいた時には残り1・2ヶ月になり、1・2ヶ月でどうかなるようなものじゃなかった」「国試勉強は未知の世界で、どれを勉強していいのかというのも全然わからないから怖いと思った」などのデータで形成された。

【14. 実習中の課題過多による睡眠不足】〔7記録単位：2.9%〕：「基礎看護学実習は、毎日記録とか、看護過程、関連図とかに追われて眠れなかった」「3年生のときは、実習行って看護過程を仕上げたり、明日の準備などがあり、本当に寝る間もなく3時間寝ればいいくらいだった」などのデータで形成された。

【15. 看護技術の未熟さと患者からの拒否による患者との相互行為困難】〔7記録単位：2.9%〕：このカテゴリは、「患者のことを全部聞いてしまった

ら、看護計画がわからなくなってしまうという焦りから、看護計画に必要なことだけ聞いてしまうので、患者との関係がギクシャクした」「実習で受け持ち患者にしようと思っていたケアを断られ、そんなのも初めてだった」などのデータで形成された。

【16. 国家試験受験に伴う精神的緊張】〔5 記録単位：2.1%〕：このカテゴリは、「国家試験前日は緊張して眠れなかった」「国家試験前日は寝るのも嫌だし、かといって勉強したほうがいいのかとか、色んなことを考えたりしてメンタル的に大変だった」などのデータで形成された。

【17. 実務と学業併行による集中力の拡散】〔4 記録単位：1.6%〕：このカテゴリは、「体育の授業は最高の気分転換だったが、その後に夜勤に入ったりするが、先のことを考えると憂うつになる」「先輩達も厳しいし、置いて行かれるのも嫌で、仕事のほうにウエイトを置いてしまって、学習が追いつかなくなってしまうのがあった」などのデータで形成された。

【18. 他学生と自己との比較を通じた劣等感の知覚による自信の欠如】〔4 記録単位：1.6%〕：このカテゴリは、「実習メンバーは、できる人と組みたくないとか、やはり置いていかれるという感じはいつも持っていたので、実習メンバーが誰になるのかは本当に気にしていたし、すごく緊張した」「他の准看護師学校養成所が高度な実習をしているのかなというイメージをもってしまい、自分は実習でもあまり経験しておらず、置いていかれるのではないかなと不安になった」などのデータで形成された。

【19. 学習の継続による気力の消耗】〔3 記録単位：1.2%〕：「1年生である程度勉強を頑張って、軽い燃え尽き症候群のように、2年に入ると気が抜けた」「朝起きてずっと勉強するような生活を続けて、もし国試に落ちたら、また来年も勉強漬けの日々が続くのかと思うと、本当に嫌になった」

などのデータで形成された。

【20. クラスメイトとの良好な人間関係形成への不安】〔2 記録単位：0.8%〕：「入学直後は同じ准看護師学校養成所から来た人のかたまりがあるし、自分はよそから来ているというのがあって、入学直後は本当に緊張した」「同じ准看護師学校養成所からだけではなく、外部からも入ってくる人が何人かいるので、その学生達とのコミュニケーションがどうなるのか不安だった」というデータで形成された。

【21. 他分野の友人の生活との比較による集中力の拡散】〔1 記録単位：0.4%〕：このカテゴリは、「周りの高校卒業して大学行った友達とか、就職した友達とかと、遊ぶ時間も全然合わなくなり、何で自分だけこんなに頑張ってるんだろうと思うと、勉強に集中できないところがあった」というデータで形成された。

【22. 実務と学業の併行生活開始による入学への後悔】〔1 記録単位：0.4%〕：このカテゴリは、「学校行って仕事行って疲れて寝る、勉強を帰って来てするなんていう時間はないというのが5月過ぎくらいまで続き、来るんじゃなかったという後悔」というデータで形成された。

【23. 成績低下による学習意欲の低下】〔1 記録単位：0.4%〕：このカテゴリは、「准看護師学校養成所の時は常にトップの方にいたいという気持ちがあったけど、何回かやってなれず、やはり勉強ができないとやる気がなくなる」というデータで形成された。

3. カテゴリの信頼性

カテゴリの一致率は、100%、97.4%であった。これは、本研究が明らかにした23カテゴリが信頼性を確保していることを示す。

VI. 考 察

本研究の結果は、2年課程看護専門学校学生が

学習上、23カテゴリによって表される問題、すなわち23種類の問題に直面していることを明らかにした。そこで、本項では、2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題の特徴を考察する。

2年課程看護専門学校学生が学習上直面する問題23種類のうち、その特徴を明らかにするために最初に着目したカテゴリは、【1. 教員の指導方法や自校の教育方針に対する困惑】である。2年課程看護専門学校に就学している学生の年齢は多様である²⁴⁾。これは、入学してくる学生が、成人学習者の特徴をもつことを示唆する。本研究の対象者も、平均年齢が30歳を超え、入学時にすでに社会人経験を有していた対象者が多かった。成人学習者は、経験の蓄えを蓄積するようになり、受動的に受け取った学習よりも、経験から得た学習によりいっそうの意味を付与する²⁵⁾。このため、2年課程看護専門学校学生は、教員の指導方法や、自校の教育方針に、自己の経験から得た学習内容と一致しない部分があった場合に困惑することを示す。

これに関連して、着目したカテゴリは、【6. 看護過程の理解不十分による実習時の看護過程展開困難】【7. 実務で経験していない学習内容の理解困難】【10. 実習経験の少なさによる実習への不安】【16. 国家試験受験に伴う精神的緊張】である。これら4カテゴリは、2年課程看護専門学校学生が、初めて経験する学習経験に対して、理解が困難であったり、不安や緊張を感じたりしていることを示す。成人学習の理論²⁶⁾は、成人学習者の特徴として、学習者自身の経験が学習を円滑に進める際の豊かな資源になることを提示している。また、先行研究²⁷⁾は、成人期にある学生の過去の個人的・職業的・教育的経験が、学習を推進できる存在であることを示す。2年課程看護専門学校学生は、准看護師としての職業経験をもちながら就学しており、先述したように成人学習者の特徴をもつ。このため、2年課程看護専門学校学生が、

学習を進める過程で、過去に経験したことのない学習経験に直面した際に、過去の経験を資源として活用することを試みるも、学習上直面するすべての問題に対して、過去の経験が活用可能とはいえないため、理解が困難になったり、不安や緊張を感じたりすることを示す。

以上は、【1】【6】【7】【10】【16】が《2年課程看護専門学校学生が、成人学習者の特徴をもつことによって生じる》という特徴をもつことを示す。

次に着目したカテゴリは、【2. 実務や親役割と学業併行による自己学習時間捻出困難】【17. 実務と学業併行による集中力の拡散】である。役割とは、集団や社会のなかに特定の位置を占める人間に期待される一連の行動様式である²⁸⁾。先行研究²⁹⁾は、2年課程看護専門学校学生の多くが、准看護師として就労しながら、また、配偶者や子どもを持ちながら就学しているため、同時併行を余儀なくされる多様な役割遂行の優先度を変えなければ学習を継続できないことを明らかにした。学生が状況に応じて優先度を変更した役割は、職業上の地位の確保、子どもの教育などの次世代の育成、生活の経済的安定など、成人期の発達課題³⁰⁾に一致する。これらは、成人期にある2年課程看護専門学校学生が、成人期の発達課題に関わる役割と学習者としての役割の優先度を状況に応じて変更しながら学生生活を送っていることを示す。そのため、優先した役割によっては、自己学習時間の捻出が困難になったり、学業への集中力が拡散することが生じることを示す。

以上は【2】【17】が、《2年課程看護専門学校学生が成人期の発達課題に影響を受けることによって生じる》という特徴をもつことを示す。

次に着目したカテゴリは、【8. 教員との関係形成による学習意欲低下と厳しい指導による自信の喪失】【9. 他学生との関係形成困難による学習の難渋】である。先行研究³¹⁾は、2年課程看護専門

学校学生が、他者支援の獲得によって学習を進展させることや、支援を獲得できないときに学習が難渋することを明らかにした。本研究が分析対象としたデータは、学生が、教員の厳しい指導を連日受けたために、気分が落ち込み本来の力が出せなくなったり、ともに学習するクラスメートとの関係性に影響を受けて、学習が停滞したり緊張したりしたことを示した。これらは、学習を進展される際に、他者の支援を必要とする2年課程看護専門学校学生が、教員や他の学生との関係形成がうまくいかなかったり、あるいは不安を感じた場合に、学習を遂行する上での学習意欲に影響を受けることを示す。

これに関連して着目したカテゴリは、【20. クラスメートとの良好な人間関係形成への不安】である。先行研究³²⁾は、2年課程看護専門学校学生が、学習過程において、ともに学習する他学生と仲間意識を共有し、関係性を強めていくことを明らかにした。また、退学などで他学生との別離を経験した際には、学生は一時的に学習意欲を失ったりすること明らかにした。これは、学生が、ともに学習する他学生との間で、仲間意識を共有することを通じて、学習環境に順応したり、学習支援を受けたりしていることを示すとともに、他学生との関係性が学習意欲に大きく影響することを示す。

次に着目したカテゴリは、【18. 他学生と自己との比較を通じた劣等感の知覚による自信の欠如】である。2年課程看護専門学校学生の実習中のストレス対処行動を解明した先行研究³³⁾は、学生が実習中に他学生と自己とを比較し、自分の劣りを自覚することを明らかにした。本研究が分析対象としたデータは、2年課程看護専門学校学生が、実習中に他学生と自己とを比較し、劣等感を感じたり、自信を失ったりすることを示した。看護学実習は、通常数人のグループで行うことが多い。グループ学習ならではの相乗効果も期待できると

同時に、学生によっては他者と自分とを比較して劣等感を抱くこともあることが示されている。これらは、2年課程看護専門学校学生が、学習目標の達成に向かう過程で、自己の学習経験と他者の学習経験とを比較し、青年期の特徴である不安の強さに影響を受けたことにより、劣等感を感じることを示す。

これに関連して着目したカテゴリは、【21. 他分野の友人と生活との比較による集中力の拡散】

【22. 実務と学業の併行生活開始による入学への後悔】である。青年期の発達課題に自我同一性がある。自我同一性とは、自分は何者か、自分の存在意義は何かなど、自己を社会のなかに位置づける問いかけに対して、肯定的かつ確信的に回答できることである³⁴⁾。看護学生の同一性形成に関わる経験を明らかにした先行研究³⁵⁾は、学生が課外活動や広い交友関係を通じて、社会性の獲得、自己の可能性と存在意義の発見、自己の受け入れと解放、意志決定への思考錯誤ということを経験し、これらに基づいて同一性が形成されていることを明らかにした。これに対して、2年課程看護専門学校学生は、青年期の学生であっても、すでに准看護師として就労しながら就学している。そのため、自我同一性の形成に関与する課外活動や広い交友関係を経験しにくい状況であることが推察される。これらは、青年期の2年課程看護専門学校学生が、自我同一性の確立に関連して、実務と学業を併行する自己の生活と他分野の友人の生活とを比較して、学習への集中力を拡散させたり、入学を後悔したりしている可能性があることを示す。

これに関連して着目したカテゴリは、【19. 学習の継続による気力の消耗】である。先行研究³⁶⁾は、2年課程看護専門学校学生が、在学中に様々な余暇活動を通じて、学生生活に伴うストレスを発散し、気分転換をしていることを明らかにした。本研究が分析対象としたデータは、入学後から緊張

状態が続いた学生が、就学2年目に入ったときに緊張の緩和とともに学習意欲の低下を自覚したり、長期間に及ぶ国家試験勉強を継続した際に、それを放棄したくなるような学習意欲の低下を経験したりすることを示した。緊張状態の長期間継続により心身が疲労した際に、意欲をこれまでと同様に保持することは困難である。そのため、学習の継続により蓄積した心身の疲労により、学習意欲の低下が起きたことが推察される。

これに関連して着目したカテゴリは、【23. 成績低下による学習意欲の低下】である。本研究が分析対象としたデータは、2年課程看護専門学校学生が、自己学習の成果が、成績に反映されなかった場合に、学習意欲を失うことを示した。内発的動機付けとは、環境との相互交渉を積極的に行いつつ、自らの有能さを追求していく行動様式に対する概念である³⁷⁾。内的動機づけを低下させる要因として、自己が行っている行動が、刺激の回避につながらないと認知した際に、回避する意欲を失う学習性無力感³⁸⁾がある。本研究が分析対象としたデータは、学生が努力を続けても、成績が上がらない場合、努力をやめる様子を示した。このため、自己学習の結果が、成績に反映されなかった場合に、学習意欲を保持することが困難であることを示す。

本研究の対象者の年齢は、23歳から44歳の範囲と、青年期から成人期に及んだ。これは、多様な背景をもつ2年課程看護専門学校学生の特徴を反映している。すでに他の職業経験をもっていたり、家庭をもっていたりする成人期の学生のみならず、高等学校卒業後、准看護師学校養成所の2年間の就学を経て、20歳で入学する青年期の学生も存在する。青年期は、アイデンティティの形成と獲得という発達課題や、職業を選択し、それをどのように継続するかという職業的社会化の問題に直面する時期である³⁹⁾。そのため、2年課程看護専門学校は、就学中に教員や他学生といった他者と

の関係性に悩んだり、学業成績が停滞した際などに、自身の職業選択の決定に葛藤を生じたりすることがあり、これらが学習を継続する際に影響を及ぼすことがあることを示す。

以上は、【8】【9】【20】【18】【21】【22】【19】【23】が、《2年課程看護専門学校学生が青年期の発達課題に影響を受けることにより生じる》という特徴をもつことを示す。

次に着目したカテゴリは、【4. 入学に伴う環境の変化による心身の疲労】である。先行研究⁴⁰⁾は、2年課程看護専門学校学生が、入学直後に円滑な学習の進行に向けて、生活様式を調整していることを明らかにした。2年課程看護専門学校学生は、准看護師学校養成所卒業後、准看護師免許を取得している。このため、学生の多くは、2年課程看護専門学校入学後は、准看護師として就労しながら就学している。それまでの准看護師学校養成所学生時代と比較すると、就労時間は長くなり、夜勤をしている学生もいる。そのため、入学直後はとくに、生活環境の変化が大きく、心身ともに疲労しやすいことが示された。

これに関連して着目したカテゴリは、【11. 学習環境の整備不十分に伴う円滑な学習困難】である。学習とは、人間が環境との相互作用を通して新しい行動様式を身につけることである⁴¹⁾。そのため、その進行には、学習環境が深く関与する。本研究が分析対象としたデータは、実習中に学生が使用可能な物品が限られていたため、他学生の援助が終了するまで待たねばならなかった状況や、自校の図書室に活用可能な文献がないため、大学の図書館を活用せざるを得ない状況があったことを示していた。これらのデータは、学生が学習を円滑に進めるための学習環境が、十分に整っていない学習場面が存在したことを示す。

以上は、【4】【11】が、《2年課程看護専門学校学生が学習環境に影響を受けることによって生じる》という特徴をもつことを示す。

次に着目したカテゴリは、【3. 複数の学習課題同時進行による学習困難】、【14. 実習中の課題過多による睡眠不足】である。学校教育法が専修学校設置基準⁴²⁾に定める、卒業要件にあたる年間授業時間数は800時間である。これに対して、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における2年課程看護専門学校の授業時間数は2180時間以上⁴³⁾となっている。これは、2年課程看護専門学校の授業時間数が、他分野の専門学校と比較して多い可能性を示唆する。そのため、卒業要件を充足するためには、同時に複数の課題を併行していく必要や、限られた授業時間数のなかで、ケースレポート作成に関する事など、多くの内容を学習していく必要がある可能性が示唆される。先行研究⁴⁴⁾は、2年課程看護専門学校学生が、膨大な学習課題に対して、学習時間が不足し、課題の遂行が困難になることがあることを明らかにした。

これに関連して着目したカテゴリは、【5. 准看護師学校養成所よりも高度な学習内容への適応困難】である。保健師助産師看護師学校養成所指定規則において、准看護師学校養成所の授業時間数は、各科目合計1,890時間となっており⁴⁵⁾2年課程看護専門学校の総授業時間数よりも少ない。このことは、2年課程看護専門学校学生が、准看護師学校養成所を卒業し、2年課程看護専門学校に入学した際に、学習内容が高度になったと感じる要因になると推察される。

これに関連して着目したカテゴリは、【12. ケースレポート作成知識獲得不十分によるケースレポート作成困難】である。本研究が分析対象としたデータは、2年課程看護専門学校学生が、不十分な知識のまま、ケースレポートを作成することを余儀なくされていることを示した。また、本研究のデータは、2年課程看護専門学校学生が、通常の看護学実習科目の履修中に、それと併行して実習中の学習経験を、別の科目の学習成果としてケースレポートにまとめていることを示してい

た。そのため、学生は、現在進行している実習科目に関連した学習を深めることを優先せざるを得ない状況下にあるため、ケースレポート作成過程に生じる作成方法に関する知識不足を補う余裕がないまま作成していることを示唆する。これらは、カテゴリ【3】【14】において考察した限られた授業時間数のなかで、多くの内容を学習する必要があることと併せて、学生のケースレポート作成に関する学習を、より困難にしている可能性を示唆する。

これに関連して着目したカテゴリは、【13. 広範な国家試験出題範囲に応じた学習計画立案困難】である。本研究が得たデータは、2年課程看護専門学校学生が、国家試験受験に向けた学習を展開する過程で、その出題範囲の広さに困惑したり、学習開始から受験日までの時間が短く、学習計画の立案に難儀したりすることを示した。また、本研究の対象者の多くが、最終学年次の12月前後に実習を終了すると、その後は准看護師としての就労時間が増加している。先行研究⁴⁶⁾は、2年課程看護専門学校学生が、国家試験受験に対して不安を感じたり、准看護師としての実務と受験勉強を併行していることにより、十分な学習時間の確保が困難であることを明らかにした。本研究は、この先行研究と同一のデータを2次分析している。そのため、国家試験受験に向けた学習時間が十分に確保できず、広範な出題範囲と合わせて、効果的な学習計画の立案が困難であるという、先行研究と同様の解釈が可能であると推察する。

以上は、【3】【14】【5】【12】【13】が、《2年課程看護専門学校の教育課程や学生の背景に影響を受けたことにより生じる》という特徴をもつことを示す。

最後に着目したカテゴリは、【15. 看護技術の未熟さと患者からの拒否による患者との相互行為困難】である。本研究が分析対象としたデータは、2年課程看護専門学校学生が、実習中の患者との

相互行為のなかで、とくにコミュニケーションに難渋することを示した。多くの先行研究⁴⁷⁻⁴⁹⁾が、看護学生と患者のコミュニケーション時の困難に関する研究に取り組んでいる。これは、多くの看護学生が患者とのコミュニケーションに課題をもつことを示唆する。本研究の対象者も、青年期の学生のみならず、社会経験をもつ成人期の学生においても、患者とのコミュニケーションに難渋した様子が示された。これは、看護学の初学者である看護学生にとって、患者とのコミュニケーションは、習熟を要する重要な課題であることを示唆する。厚生労働省は、看護基礎教育課程で充実を図るべき内容⁵⁰⁾として、看護学生のコミュニケーション能力の向上を図るための教育内容の充実を要請している。また、これらは、多くの看護学生が、対人関係技術において課題を抱えていることを示唆する。以上は【15】が、《対人関係技術の未熟さに影響を受けたことにより生じる》という特徴をもつことを示す。

Ⅶ. 結 論

1. 2年課程看護専門学校学生が学習上、23種類の問題に直面していることを明らかにした。
2. 2年課程看護専門学校学生が学習上直面する23種類の問題には、《2年課程看護専門学校学生が、成人学習者の特徴をもつことによって生じる》《2年課程看護専門学校学生が成人期の発達課題に影響を受けることによって生じる》《2年課程看護専門学校学生が青年期の発達課題に影響を受けることによって生じる》《2年課程看護専門学校学生が学習環境に影響を受けることによって生じる》《2年課程看護専門学校の教育課程や学生の背景に影響を受けたことにより生じる》《対人関係技術の未熟さに影響を受けたことにより生じる》という6つの特徴がある。

謝 辞

本研究を行うにあたり、研究への参加を快く承諾し、貴重な時間を割いて自己の学習経験を率直にお話下さった看護職者の皆様に心より感謝の意を表する。

引用文献

- 1) 佐々木栄子, 名原寿子(1994): 2年課程昼間定時制学生の実態—質問紙法による就労実態と職業継続意識の調査—, 日本看護学教育学会誌, 4(2): 112-113
- 2) 坂井恵子, 山下美子, 土肥真美恵ほか(1991): 勤労看護学生の実習学年における実態調査(その1)—2年課程定時制における7年間のアンケート調査より—, 第22回日本看護学会論文集—看護教育—: 159-162
- 3) 根岸茂登美, 加城貴美子, 日高玉恵(1996): 2年課程夜間定時制看護学生の実態—生活習慣と就学に対する意識—, 第27回日本看護学会論文集—看護教育—: 59-61
- 4) 林 千冬, 近藤宏美, 諏訪由美子(2000): 看護教育制度の改革をめぐる看護婦2年課程学生の意識に関する調査研究, 群馬大学医学部保健学科紀要, 20: 89-95
- 5) 日本看護協会出版会編(2010): 平成21年看護関係統計資料集, p.93, 日本看護協会出版会, 東京
- 6) 前掲書3), 59-61
- 7) 佐々木栄子, 名原寿子(1993): 2年課程昼間定時制に通う学生の実態(1)—入学時の背景と入学動機—, 第24回日本看護学会論文集—看護教育—: 78-81
- 8) 垣上正裕, 松田安弘, 山下暢子(2013): 2年課程看護専門学校学生の学習経験に関する研究, 群馬県立県民健康科学大学紀要, 8: 23-43
- 9) 神谷道代, 迎千香子(2012): 精神看護学実習

- におけるプロセスレコードからの学び—看護学科3年課程と2年課程のレディネスの違いによる学びの特徴—, 日本精神科看護学術集会誌, 55(2) : 15-19
- 10) 山本富士子, 大山睦子(2011) : 野外活動を取り入れた「基礎力論」の教育効果と課題, 甲府看護専門学校紀要, 2 : 71-75
- 11) 磯山あけみ(2008) : 性と生殖に関する倫理教育—母性看護学におけるグループ討議による学びの構造—, 第38回日本看護学会論文集—看護教育— : 231-233
- 12) 宮澤知子, 橋爪泰司, 天谷真奈美(2003) : 2年課程の看護学生における精神看護学に関するレディネスの分析(第2報)—准看護師養成課程別の比較分析, 第34回日本看護学会論文集—看護教育— : 64-66
- 13) 林 千冬, 近藤宏美, 諏訪由美子(2000) : 看護教育制度の改革をめぐる看護婦2年課程学生の意識に関する調査研究, 群馬大学医学部保健学科紀要, 20 : 267
- 14) 藤崎資子, 柴田恵子, (2009) : 交流分析理論で明らかにした臨地実習中に不安・ストレスがあった学生の対処方法, 第39回日本看護学会論文集—看護教育— : 322-324
- 15) 看護行政研究会編(2015) : 看護六法 平成27年版, 保健師助産師看護師学校指定規則第四条二項, p.72, 新日本法規出版, 名古屋
- 16) 中島義明, 安藤清志, 子安増生ほか編(2008) : 心理学辞典, 「問題解決」の項, p.847, 有斐閣, 東京
- 17) 東 洋, 坂元 昂, 志方守一ほか編(1979) : 新教育の事典, 「問題解決過程」の項, p.773, 平凡社, 東京
- 18) 前掲書 8), 23-43
- 19) Polit, D. F., Beck, C.T. (2004) : Nursing Research : Principles and Methods, 7th ed, p.292, Lippincott Williams & Willkins, Philadelphia
- 20) 前掲書 8), 23-43
- 21) 舟島なをみ(2010) : 看護教育学研究—発見・創造・証明の過程 第2版, p.227-247, 医学書院, 東京
- 22) Scott, W.A. (1955) : Reliability of Content Analysis ; The Case of Nominal Scale Coding, Public Opinion Quarterly, 19 : 321-325
- 23) 日本看護教育学学会 : 日本看護教育学学会研究倫理指針, 看護教育学研究, 19(1), 2010.
- 24) 日本看護協会出版会編(2010) : 平成21年看護統計資料集, p.93, 日本看護協会出版会, 東京
- 25) Knowles, M.S. (1980) : The Modern Practice of Education : From Pedagogy to Andragogy, Published by Cambridge Adult Education, an imprint of Pearson Education, Inc, 堀薫夫, 三輪建二監訳(2008) : 成人教育の現代的実践—ペダゴジーからアンドラゴジーへ—, p.39, 鳳書房, (東京)
- 26) Knowles, M.S.(1978) : The Adult Learner : A Neglected Species/Second Edition, p.31, Gulf Publishing Company, Houston
- 27) Bradshaw, M.J., Nugent, K.(1997) : News, notes & tips. Clinical learning experiences of nontraditional age nursing students, Nurse Educator, 22(6) : 40-47
- 28) 見田宗介他編(1988) : 社会学事典, 「役割」の項, p.878, 弘文社, 東京
- 29) 前掲書 8), 28-30
- 30) 東 洋, 繁多 進, 田島信元編(1992) : 発達心理学ハンドブック 28章「成人期」, p.498, 福村出版, 東京
- 31) 前掲書 8), 30-31
- 32) 前掲書 8), 31-32
- 33) 垣上正裕, 原田和美(2012) : 2年課程看護専門学校学生の基礎看護学実習中のSOC強化要因の概念化, ヘルスサイエンス研究, 16(1) : 12

- 34) 前掲書16)「アイデンティティ」の項, p. 4
- 35) 杉森みど里, グレグ美鈴, 舟島なをみ (1993): 看護基礎教育課程における学生の同一性形成に関わる経験の分析—臨床経験2年目の看護婦の面接調査から—, 千葉大学看護学部紀要, 15: 9-15
- 36) 前掲書8), 31
- 37) 東洋, 柏木繁男, 末永俊郎他編(2003): 心理学事典, 「内発的動機づけ」の項, p.647-648, 平凡社, 東京
- 38) 細谷俊夫, 奥田真丈, 河野重男ほか編(1990): 新教育学大事典 第5巻, 「動機づけ」の項, p. 294-298, 第一法規, 東京
- 39) 舟島なをみ(2013): 看護学教育における授業展開—質の高い講義・演習・実習の実現に向けて— 第1版, p.59, 医学書院, 東京
- 40) 前掲書8), 28
- 41) 青木一也, 大槻 健, 小川利夫ほか編(1988): 現代教育学事典, 「学習」の項, p.64, 労働旬報社, 東京
- 42) 文部科学省 (2015): 専修学校設置基準の概要, 年間授業時間数, <http://www.mext.go.jp/a-menu/shougai/senshu/06082502.htm>
- 43) 前掲書15) 看護師等養成所の運営に関する指導要領について, 第5履修時間等, p.288
- 44) 前掲書8), 30
- 45) 前掲書15) 看護師等養成所の運営に関する指導要領について, 第5履修時間等, p.288
- 46) 前掲書8), 32
- 47) 阿部智美(2013): 患者とのコミュニケーション困難場面における看護学生の「解説、問題解決、感情」との関連, 日本看護研究学会雑誌, 36(1): 149-156
- 48) 高橋ゆかり, 鹿村真理子, 須藤絹子, (2005): 看護学生の臨地実習におけるコミュニケーションの良否に関わる要因, 群馬パース大学紀要, 1: 19-26
- 49) 安斎三枝子, 岡本寿子, 徳永基与子他(2007): 2年次基礎看護学臨地実習終了後レポートから見た学習内容の検討, 京都市立看護短期大学紀要, 32: 11-15
- 50) 厚生労働省(2007): 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書, p.2, 東京

Problems Encountered during the Learning Process by Nursing Students in a Two-year Diploma Program

Masahiro Kakigami, Yasuhiro Matsuda
Gunma Prefectural College Of Health Sciences

Objective: The aim of this study was to identify problems encountered during the learning process by nursing students in a two-year diploma program.

Methods: Data were collected from semi-structured interviews of 18 nurses who graduated from a two-year nursing diploma program. All data were analyzed using a content analysis method based on Berelson's methodology used in nursing education.

Results: The problems encountered by nursing students could be classified into 23 categories, including "Perplexed by the teacher's educational method and the educational policies of the program" and "Difficult to ensure the learning time due to parallel work and parent roles and academic."

Conclusion: Nursing students in a two-year diploma program encountered 23 types of problems during the learning process. They will encounter problems had six features, including "Nursing students in a two-year diploma program have the characteristic of adult learners" and "Affected by the nursing students in a two-year diploma program curriculum and student background." These results are expected to contribute to a better understanding of the problems encountered by nursing students and to help them achieve their goals.

Key words: Two-year nursing diploma program, Nursing Students, Learning process, Problems